

ロシアとの接近と次回の総選挙について

2025年3月26日

ミャンマービジネスサポートデスク 西垣 充

ミャンマー軍事政権のミン・アウン・フライン総司令官は、3月3日からロシアの首都モスクワを訪問しました。プーチン大統領をはじめ、ミシュスチン首相、レシエトニコフ経済発展相、ウォロジン下院議長らと会談したと報じられています。

原子力発電、運輸インフラ、農業、情報通信、資源開発など、幅広い分野でミャンマー経済の発展に向けて協力していく方針とされており、原子力発電所についてはネピドー近郊に建設する計画があることも、メディアを通じて伝えられています。

また、かつて日本とタイが開発に加わるとされていたミャンマー南部のタニンダリー管区のダウェイ経済特区については、ロシアが深海港や製油所などの整備に協力するとも言われています。この地域はロシアにとって、東南アジアへの“海の玄関口”となる重要な拠点になると見られています。

3月7日、ミン・アウン・フライン総司令官はベラルーシのルカシェンコ大統領との会談後の記者会見において、「今年12月もしくは来年1月に総選挙を実施する」と発表しました。

この総選挙については、西側諸国を中心に強い反発がある一方、ロシアや中国に加え、タイやインドなどの周辺国は評価しているとも伝えられており、ミャンマー側はそれらの国々の協力を得て「正当な選挙」であると主張する構えとみられます。

3月26日付の国営紙の一面では、「次回の総選挙を成功させる」との見出しが掲載されるなど、選挙実現に向けて様々な準備が進められていることがうかがえ、今後の動向が注目されます。

以上